

総務委員会会議録（要点筆記）

令和4年6月20日（月）

午前10時50分 開会

○山田清一委員長

ただいまから総務委員会を開会します。

議案審査に引き続きましてのご協議となり、皆さまお疲れのところ大変恐縮ですが、ご協力をお願いいたします。

本日は、テーマ決定後の初の委員会となります。調査テーマは「自治体DXの推進について」、半田市に提言を行っていくために、現状と課題を掘り下げてまいりたいと考えています。

始めに、半田市では今年3月に「半田市DX推進計画」が策定されておりますが、当委員会の調査を深めていくにあたり、もう一度DXとは何かについて説明をしていただくとともに、今後、DXを推進していくにあたり、本市の現状などについて、デジタル課長からお話しいただきたいと思っております。

○間瀬恒幸デジタル課長

DXとは、デジタルトランスフォーメーションの略語となります。DXの実現には、デジタイゼーション、デジタルイゼーション、デジタルトランスフォーメーションの3つステップがあります。1つ目のステップであるデジタイゼーションは、紙の情報をデジタルデータに置き換えに行くステップです。例えば、OCRを活用して紙で提出する各種申請書を電子データとして保存することになります。2つ目のステップであるデジタルイゼーションとは、業務手順を変えずにそのままデジタル化するステップです。例えば、紙決裁を電子決裁にするというものです。3つ目のステップであるデジタルトランスフォーメーションとは、デジタル技術を活用して業務手順や業務のあり方などを変革するステップになります。単にシステム、アプリを導入することではなく、デジタル技術の導入にあわせて、これまでの業務をゼロベースから見直し、作り変えるということであり、これがDXとなります。

DXを推進する理由としては、少子高齢化や労働人口の減少に加え、市民ニーズの多様化、個別化などによりこれまでのような行政運営が増々困難となること。2040年問題として、団塊世代ジュニアが65歳から70歳になり、社会から卒業されることにより、労働人口が急速に減っていくことがあげられます。加えて、デジタル技術の事業費の減少、これまではそれぞれの自治体、施設で管理していたものをクラウド化、個々での管理から一か所に集中する、システムを自治体が共有して管理し、利用することになるとともに、スマートフォンの普及により、利用しやすさが急速に向上し、デジタル技術についても様々な事業者が開発することにより、選択肢が増加することによって、自治体DXを推進することになります。

本年3月に策定した「半田市DX推進計画」の主な取り組みとしては、①多様なライフスタイルに対応したサービスの実現、②市役所業務及び教育・子育てにおけるICT利活用、③情報システムの全体最適化、④デジタル人材の育成・確保といった4項目に特化し、いつでも、だれでも、どこでも便利なデジタルシティを目指すこととしています。この中でも、DXを推進する上で重要な要素としては、DX推進体制、デジタル人材の育成と考えています。これまでも本市では、文書の電子決裁やRPA（人がパソコン操作を行う作業をソフトウェアによる自動的な操作によって代替するもの）AI-OCR（書類や帳票をAIが読み取り、データ化するシステム）をなど導入していますが、各システムの利用状況として

は、中でも図書館で大きな偏りが生じています。これは、D Xの推進体制が整っていない、職員の意識の差によるものと考えています。

そのため、D Xの推進体制として、今年度まず体制作りを行いました。部長級以上で構成するD X推進委員会では、D X実施推進方針の検討、進捗確認を行います。各課に配置するD X推進リーダーは、デジタル課と連携し、各課業務のデジタル化やD Xを推進します。先日行った会議では、職員のD Xに対する意気込みが感じられるとともに、D X推進により業務改善を行うことができるとのことでした。一方、ペーパーレスが浸透していないとの課題もあげられました。

本市のデジタル化の現状としては、4月にデジタル課ができましたが、オンライン申請の利用状況として、e-あいち半田市電子申請を利用した手続きは120件です。本市の行政手続きは、概ね1,300件あるため、まだまだ少ないといえることから令和7年度末までにはオンライン化が可能な手続き100%を目指していきたいと考えています。オンライン申請の普及に対する課題としては、マイナンバーカードを利用した立体的な活用がされていないことや、e-あいち半田市電子申請のフォームが利用しづらいことも利用が増えない要因であると捉えています。なお、令和4年度は記載の27手続きについてオンライン申請を開始する予定です。e-あいち半田市電子申請、届出システムの利用状況として、まだまだ少ないといえますが、申請フォーム数、申請件数は年々増加傾向にあり、昨年度は、新型コロナウイルスワクチンや地域振興券関係の申請で利用される方が増え、大きく申請件数が増えました。また、本市のRPA、AI-OCR利用状況としては、9課60業務で導入した結果、令和3年度では約3,800時間削減ができています。しかしながら、部署での偏りが生じている状況です。

○山田清一委員長

説明は終わりました。忌憚のないご協議をいただきたいので、いったん休憩します。

午前11時2分休憩

<休憩中の主な質疑応答>

Q：図書館の偏りが問題であるとのことでしたが、これをどのように改善していくことを考えていますか。

A：各課には、デジタル化を推進する推進リーダーを配置しています。そのため、デジタル課職員と連携して、推進リーダーが中心となってそれぞれの課の課題を解決していくことを考えています。

Q：デジタル化の推進にあたり、これからの部分を広げていくのかを教えてください。

A：オンラインでできる仕組みを作っていく、基本的には、全てのものがオンラインでできるようにしたいと考えています。

Q：D X推進として、いつでも・どこでもと記載がありますが、どのようなことを目指していますか。

A：オンライン手続きができるようにするだけでなく、市民の方が使いやすいようにしていくことが重要であり、市役所に来なくても手続きができる仕組みにしていけることが大切であると考えます。

午前11時18分再開

○山田清一委員長

休憩を解き、会議を再開します。

今後の方向性についてですが、D Xには様々な取り組みがあるため、「行政手続きのオンライン化」を

中心に調査研究していきたいと思います。その視点で委員の皆様からさまざまなご意見をいただいて、提言へと繋げていきたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

【「異議なし」との声あり】

それでは、「行政手続きのオンライン化」を中心に調査研究してまいりたいと思います。

○山田清一委員長

次に視察についてですが、D Xの先進事例として宮崎県都城市を中心に、周辺自治体として熊本県宇城市を候補として検討しております。委員の皆様からも視察候補地がありましたら、事務局にお伝えいただければと思います。よろしくをお願いします。

視察候補日ですが、第1候補日として10月4日（火）から7日（金）までのうち3日間、第2候補日として10月12日（水）から14日（金）までを候補日としておりますので、ご予定いただきますようお願いします。

併せて、視察先の状況を踏まえて、県内視察が必要であれば提案したいと思いますので、よろしくをお願いします。

○山田清一委員長

それでは、次回の委員会は8月2日（火）全員協議会終了後、開催されない場合は午前9時30分から開催したいと思います。1週間程前に開催通知をメールで送らせていただきます。

ほかに、何かありましたらお願いします。

【「なし」との声あり】

ないようですので、この件はこれで終了します。

続きまして（2）その他について、を行います。

その他として、委員から何かございませんか。

【「なし」との声あり】

ないようですので、この件はこれで終了します。

以上で、本日予定しておりました議事は、すべて終了いたしました。本日の委員会はこれにて閉会いたします。

午前11時23分 閉会